

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

ちりも つもれば 山となる

急がば まわれ

花より だんご

石の上にも 三年

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

案ずるより 産むが やすし

犬も 歩けば 棒に あたる

笑う門には 福きたる

百聞は 一見に しかず

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

早起きは 三文の得

備えあれば うれいなし

老いては 子に したがえ

住めば みやこ

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

所 かわれば 品 かわる

月 と すっぽん

山 より 大きな しし は 出ぬ

た で 食 う 虫 も 好 き ず き

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

情けは 人の ためならず

馬の耳に ねんぶつ

ねこに こばん

とらぬ たぬきの 皮算用

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

ぬかに くぎ

たなから ぼたもち

うりのつるに なすびは ならぬ

のれんに うでおし

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

船頭 多くして 船 山にのぼる

せいては ことを しそんじる

聞くは 一時の はじ

習うより なれよ

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

身から 出た さび

光陰 矢のごとし

はるの 日ざしと 花の かおり

さくらの 花びらが まう 道

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

つばめが 軒下に 巣をつくる

たんぽぽの わた毛が とぶ

夏の 夕ぐれ 風りんの 音

せみの 声が ひびく 昼下がりに

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

ひまわりが 空を 見あげる

すいかを 冷やして 待つ 午後

実りの 秋の 田んぼ道

もみじが 山を あかく そめる

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

ちりも つもれば 山となる

ちりも つもれば 山となる

急がば まわれ

急がば まわれ

花より だんご

花より だんご

石の上にも 三年

石の上にも 三年

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

案ずるより 産むが やすし

案ずるより 産むが やすし

犬も 歩けば 棒に あたる

犬も 歩けば 棒に あたる

笑う門には 福きたる

笑う門には 福きたる

百聞は 一見に しかず

百聞は 一見に しかず

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

早起きは三文の得

早起きは三文の得

備えあれば うれいなし

備えあれば うれいなし

老いては 子に したがえ

老いては 子に したがえ

住めば みやこ

住めば みやこ

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

所 かわれば 品 かわる

所 かわれば 品 かわる

月 と すっぱん

月 と すっぱん

山 より 大きな しし は 出ぬ

山 より 大きな しし は 出ぬ

た で 食 う 虫 も 好 き ず き

た で 食 う 虫 も 好 き ず き

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

情けは 人の ためならず

情けは 人の ためならず

馬の耳に ねんぶつ

馬の耳に ねんぶつ

ねこに こばん

ねこに こばん

とらぬ たぬきの 皮算用

とらぬ たぬきの 皮算用

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

ぬかに くぎ

ぬかに くぎ

たなから ぼたもち

たなから ぼたもち

うりのつるになすびはならぬ

うりのつるになすびはならぬ

のれんに うでおし

のれんに うでおし

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

船頭 多くして 船 山にのぼる

船頭 多くして 船 山にのぼる

せいては ことを しそんじる

せいては ことを しそんじる

聞くは 一時の はじ

聞くは 一時の はじ

習うより なれよ

習うより なれよ

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

身から 出た さび

身から 出た さび

光陰 矢のごとし

光陰 矢のごとし

はるの 日ざしと 花の かおり

はるの 日ざしと 花の かおり

さくらの 花びらが まう 道

さくらの 花びらが まう 道

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

つばめが 軒下に 巣をつくる

つばめが 軒下に 巣をつくる

たんぽぽの わた毛が とぶ

たんぽぽの わた毛が とぶ

夏の 夕ぐれ 風りんの 音

夏の 夕ぐれ 風りんの 音

せみの 声が ひびく 昼下がりに

せみの 声が ひびく 昼下がりに

うすい字の上をゆっくりなぞりましょう。

ひまわりが 空を 見あげる

ひまわりが 空を 見あげる

すいかを 冷やして 待つ 午後

すいかを 冷やして 待つ 午後

実りの 秋の 田んぼ道

実りの 秋の 田んぼ道

もみじが 山を あかく そめる

もみじが 山を あかく そめる